

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス パースデー		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	完全個別～少人数(1～3名)での支援体制により、一人ひとりの発達段階や特性、当日の状態に応じた柔軟な支援が可能である。子どもの様子を丁寧に読み取り、その日のコンディションに合わせた関わりができています。	支援前の準備や視覚支援、スタッフ間での打ち合わせ・振り返りを日常的に行い、子どもが見通しを持って安心して活動に参加できる環境づくりを行っている。	支援の質の均一化を図るため、支援の視点や記録の書き方を整理し、職員間で共通理解を深める。誰が関わっても一定の質が保たれる体制づくりを進める。
2	運動を中心とした発達支援の専門性があり、ジャンプやバランス、ビジョントレーニング、感覚統合の視点を取り入れながら、楽しみながら発達を促す支援が提供できている。	子どもの状態に応じて活動内容や難易度を柔軟に調整し、「できる経験」を積み重ねられるよう課題設定を工夫している。また、達成感を得られる仕掛けを取り入れ、意欲の向上につなげている。	子どもが自分の気持ちや経験を言葉で振り返る機会を意図的に取り入れ、「できたこと」「感じたこと」を表現する力を育てる。
3	子どもの「やりたい」「やりたくない」という気持ちを尊重し、無理に活動を強いることなく、安心感を基盤とした支援を行っている。スモールステップやトークン(がんばりカード)等を活用し、「できた」という成功体験を積み重ねる仕組みが整っている。	保護者との日々のやり取りや記録共有を通して、子どもの様子や成長を丁寧に伝え、家庭と連携した支援を意識している。また、子どもの頑張りや変化を共有することで、家庭での関わりにもつなげている。	子ども同士のやりとりや関わりが生まれる活動を段階的に取り入れ、言葉のやりとりや社会性の発達につながる経験を増やしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動を中心とした支援構成の中で、言葉でのやりとりや表現活動の機会が相対的に少なくなりやすい。特に子ども同士の言語的なやりとりの場面が限られている。	個性を重視した支援体制により、子ども同士の関わりが自然に生まれにくく、意図的に機会を設けなければ交流が生じにくい構造となっている。	活動の中に「伝える・聞く・やりとりする」要素を意図的に組み込み、子ども同士の言語的な関わりが生まれる仕組みをつくる。
2	個別・少人数支援が中心であるため、異年齢の子ども同士の関わりや、模倣・協力といった自然な学び合いの機会が少ない。	運動を軸としたプログラム設計により、活動時間の多くが身体活動に充てられ、言語的なやりとりや表現の時間が中心的に位置づけられにくい。	安全面や発達段階に配慮しながら、ペア活動や異年齢交流などを段階的に導入し、協力や模倣の経験を増やしていく。
3	園や関係機関との連携がモニタリング時などに限られ、日常的・継続的な情報共有や連携体制が十分とは言えない。	少人数体制の中で日々の支援に注力するため、外部機関との連携や情報発信にかかる時間や役割分担が十分に確立されていない。	外部連携の担当や方法を明確にし、定期的な情報共有(報告・連絡)を仕組みとして定着させ、園・家庭・事業所の三者での一貫した支援体制を構築する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス パースデー

公表日 令和8年4月1日

利用児童数 15名

回収数 66%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	10					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	1				
	7 こどものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	1				
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1		1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2	2	1	5		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	4	1	2		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	1	6		
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9			1			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	2		2	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7			3	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9			1	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9			1	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10				
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス パースデー

公表日 令和8年4月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		1回に利用する児童は1～3人なのでスペースは充分。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		1回に利用する児童は1～3人なので配置数は充分。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		備品庫に収納している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		フロアはひろいので、走り回ることができている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		クールダウンにしようしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		振り返りや意見交換は毎日行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		意見交換は毎日支援の前後に行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3		コンサルタントに相談し業務改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		ネット上で研修はいつでも見れる状況になっている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		HUGアプリや紙媒体で公開している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		半年に1回モニタリングを行っている。見学时にその都度お話ししている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		会議や毎日の振り返りで意見交換をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		朝の打ち合わせの際に定期的に確認している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		会議で意見交換をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		毎回話あって作成している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		個別支援から小集団への移行は子どもの状況に応じて無理のないペースで行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		支援開始前、支援後に打合せ、振り返りを行っている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3				
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		3			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		3			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			見学時やモニタリングで家族の意見を聞く機会を多くしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3			見学時などに情報提供をしている。研修は行っていないが、インスタグラムで情報を発信している。	要望があれば研修も検討する。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3					
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3					
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3					
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3					

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3		兄弟と一緒に運動できる機会を提供している。	要望があれば、定期的に機会を増やすことを検討している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3			
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3			
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3		面談で確認しスタッフ間で情報共有している。	
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		3	おやつを提供していない	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3				